

知其蹈梯之易焉、久之自覺、語之家人、余聞之其家人云、

〔漫遊雜記〕下有一男子、病氣疾、發則向壁而坐、食飲如常、大便五七日一行、懶語言動作、諸醫悉爲勞、余曰、是非勞、疝瘕也、以瓜蒂散吐膠痰數升、後與盧蒼丸、每日五分、每月輪次灸十三四五六七、數百壯、經三月不復發、

〔醫學天正記〕乾上中暑。

一是菴餘二十歲暑熱、頭痛發熱、汗出、衄血、尿瀉、利煩燥、脈虛數、清心湯、白虎ニ加朮芍、煩悶未止、夜

熱甚、尿色少薄、湯止大便溏、補中益氣而熱退

〔醫學天正記〕乾上中寒。

一山田忠兵衛壯男感增寒、足冷五六日不止、今泄瀉、温中湯、五積ニ去奴略中

一深谷又右衛門、濕熱之證、及十一日大便溏、夜中譫言、目赤渴、脈弦實、清心湯、大柴胡也、譫止

熱未退、大便溏、白虎ニ加參

〔本朝醫談〕東鑑建保二年二月己亥、將軍實源聊御病惱、諸人奔走、但無殊御事、去夜御淵醉、餘氣歟、爰

葉上僧正候御加持之處、聞此事、稱良藥、自本寺召進茶一盞、而相副一卷書、令獻之、所譽茶德之書也、淵醉之餘氣に良藥として茶を進るを見れば、茶の酒毒を解する事知るべし、一卷の書といふは、即喫茶養生記也、茶の機能を舉たれども、元來醫家の書にあらざれば、もれたる主能もあり、大要をいへば、茶は酒食の毒を解す物なり、酒食の毒のみならず、藥力をも解す、

〔醫學天正記〕坤中毒。

一壯男、中毒腹痛吐瀉、今止、胸中疼如刺、和中湯回ノ方、弓朮姜丹ニ陳貴大守令丹弓倉姜甘、〔時還讀我書〕上一商家ノ僕不良ノ事アリテ、鞭笞セラレ、譴責ヲ蒙リシヲ深ク愧恥シテ、自盡セン